

令和6年度 障害福祉サービス事業所等における 芸術文化活動についてのアンケート 集計結果

実施報告書（Web公開版）

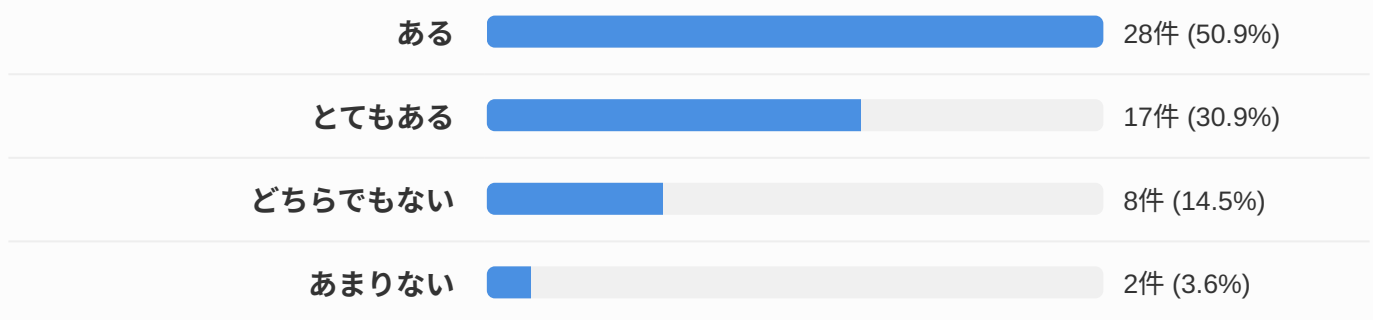
【本資料について】

本資料は、障害福祉サービス事業所等を対象に実施した「芸術文化活動についてのアンケート」の集計結果です。

※Web公開用に作成されたものであり、回答いただいた事業所名や連絡先等の個人を特定できる情報はすべて除外（匿名化）しています。

総回答数：55 件

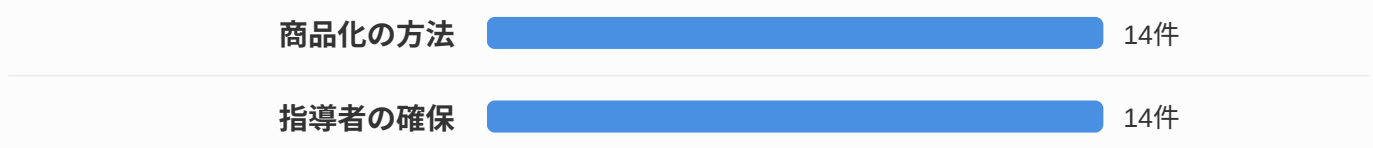
1. 障害者の芸術文化活動への関心度

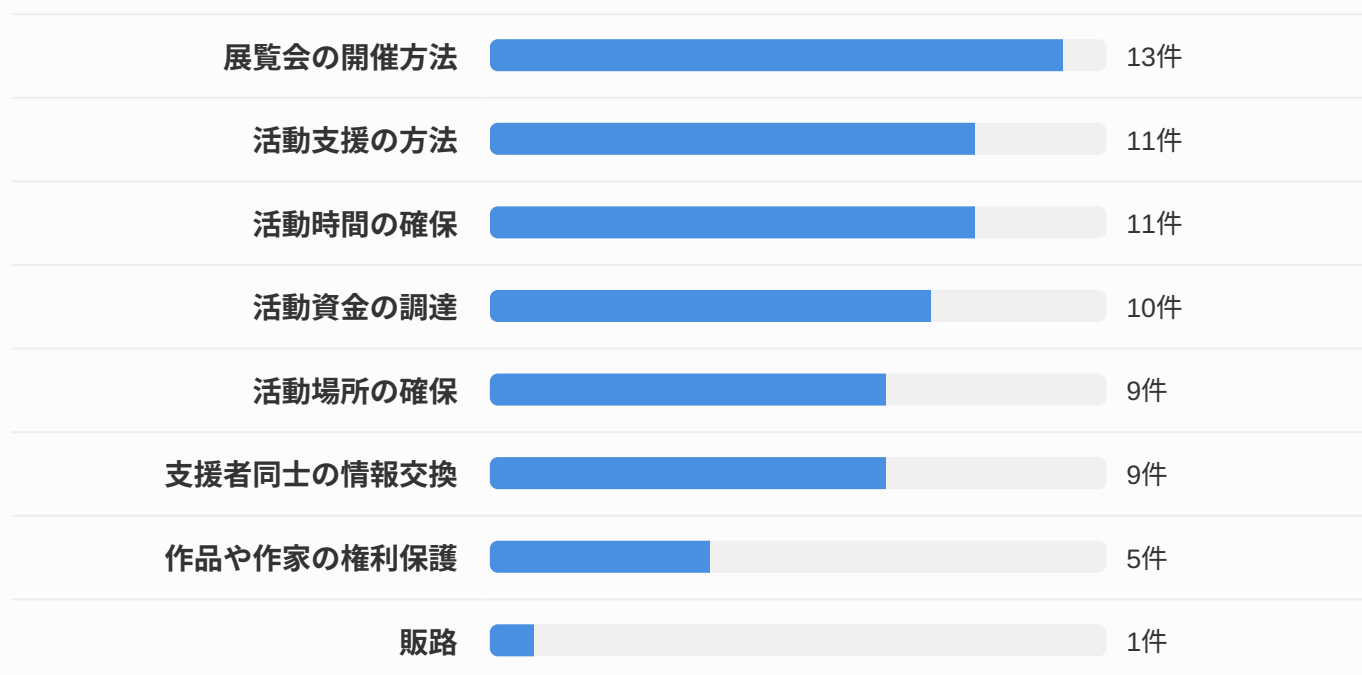


2. 芸術文化活動の実施状況

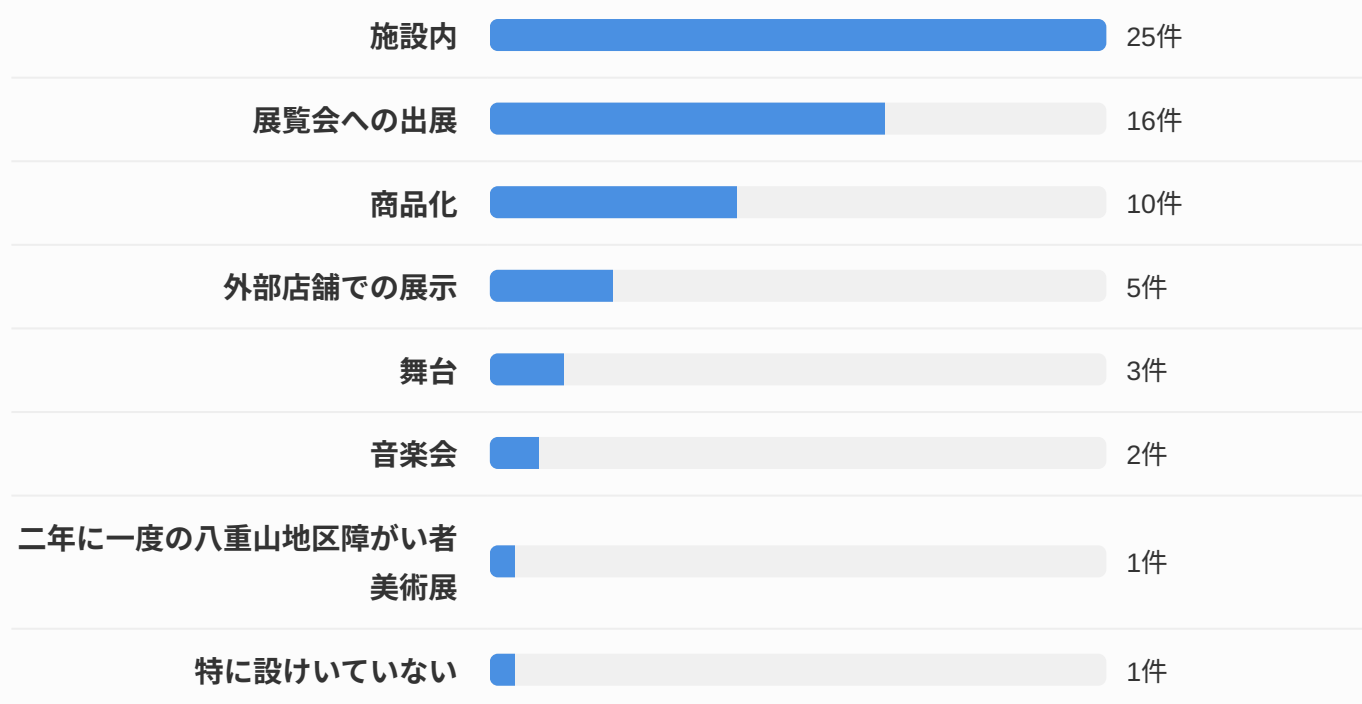


3. 芸術文化活動における課題（複数回答）





4. 作品発表の場（複数回答）



5. 寄せられたご意見・ご要望（抜粋）

地域事業所との連携、新しい創作活動、社会参加の確保、地域の人々との連携

県内にも障害のある方々のアートだけに限らず、表現活動を行っていたり、サポートしている団体がいくつかあるので、それぞれのコンセプトを共有した上で、良い距離感のネットワーク関係を構築できたらいいなと思います。

就労系サービスでは、工賃による基本報酬の評価になっており、工賃の発生しない文化芸術活動はなかなか取り組む事が難しいことや、経営者側の理解を得ずらい事がある。しかし、文化芸術活動の必要性は強く感じている。

・基本報酬が平均工賃月額に応じて評価する報酬体系になっているので、芸術文化活動をする時間の確保が難しい。

個性ある作品を、一般企業ともしっかりコラボレーションさせ、当事者や企業の可能性を広げさせたい。

一般の教室や、WSを行っている個人や団体の情報が知れる窓口があるといいと思います。活動地域や受け入れの対象が分かるリストなどがあれば、取り組みを始めるにあたり、ハードルが低くなるのではないかと思います。

気軽に発表出来る場や機会等があれば、今後、余暇活動等で取り入れてみたいと思うが、専門の講師や活動の場の確保が難しい。

県内他社と芸術文化活動について意見を交換する場や機会があればと思います。

6. 支援センターへの期待・お願い（抜粋）

PR活動の支援など。

ワークショップやイベント等の開催、技術的展開など具体的なことを話しあえる場の設置により多くの事業所や利用者との繋がりが持てるようになりたい。

障害のある方々の表現活動に対する認知度を上げ、表現活動により良くも悪くも多様性を認め合えるような風土に少しずつしていけたらいいですね。

制度面での文化芸術活動の評価を高める多為の、国等への働きかけ

今まで個々で開催及び主催しなければならなかった展示会・ステージなどを、多くの福祉関係者が協力しあって力を合わせて活躍できるその場を設けてもらいたいです。

作品の活用方法、他事業所の取り組みなど情報交換できる機会があれば

まずは、職員や利用者に興味を持ってもらうことが大切だと思うので、作品の展示会や催しなどがあれば積極的に参加したい（周知を広くお願いしたい）。

芸術は先ず自由でなくてはならない。健常者とか、障がい者の作品と銘打ってはならない。芸術の世界に区別差別があってはならない。

【お礼】

ご多忙の折、本アンケートにご協力いただきました事業所の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

皆様から寄せられた貴重なご意見・ご要望は、今後の芸術文化活動支援の参考とさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。